

祈りから生まれた教会

使徒の働き 1章 12-14節

はじめに

夏の間、四週にわたって教会のあり方を学びたいと思います。特に「エルサレム教会」のあり方から学びたいと思います。エルサレム教会は、新約時代にできた最初の教会です。そこには、教会の原点があります。教会にとって欠かせないこと、本質的なことがあるはずで

1. 「キリストを証しする共同体」としての教会

イエス・キリストは、私たちが罪から救うために十字架に架かり、復活した後、天に昇って行かれました。イエス・キリストが弟子たちに最後に遺した言葉は、「**聖霊があなたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てにまで、わたしの証人となります**」という言葉です。

教会は、イエス・キリストを証しする人たちによって建て上げられていきました。その意味で、教会とは「イエス・キリストを証しする共同体」と言えます。教会にとって、イエス・キリストを証しすることは本質的な事柄です。教会が、イエス・キリストを証ししなくなったら、教会ではなくなってしまいます。

私たちは、弟子たちのように、イエス・キリストを自分の目で見たわけではありません。私たちはイエス・キリストを目で見て信じる時代に生かされているのではなく、見ずに信じる時代、耳で聞いて信じる時代に生かされています。

イエス・キリストを証しするためには、聖霊の力が必要です。私たちは自分の力ではイエス・キリストを証しすることはできません。聖霊は、天に昇って行かれたイエス・キリスト、目には見えないイエス・キリストを証しするために、「聖書」を書かれました。聖書は、聖霊によって動かされた人たちによって書かれた書物です。聖霊は今、聖書を通してイエス・キリストを証しされます。私たちも、聖書を通してイエス・キリストを信じ、聖書を通してイエス・キリストを証ししていくのです。

教会は、本質的にイエス・キリストを証しする共同体です。イエス・キリストを証ししなくなったら、教会ではなくなります。では、私たちはどのようにイエス・キリストを証ししていくのでしょうか。それは、聖霊と聖書の力によってです。イエス・キリストは決して自分の力で証ししなさいとは言われませんでした。私たちがもし、聖霊と聖書の力に

寄り頼んで生きるなら、自分の身近な人たちから地の果ての人たちにまで、イエス・キリストを証しする者となると言われているのです。

教会は、聖霊と聖書の力に導かれて、イエス・キリストを証しする共同体なのです。

2. 「祈る共同体」としての教会

エルサレム教会は、弟子たちが聖霊の力を与えられたペンテコステの日に誕生しました。今日の聖書箇所は、イエス・キリストが天に昇って行かれてから、教会が誕生するまでの間、弟子たちは何をしていたのかということが書かれています。この期間は、約十日間です。この十日間は、弟子たちのもとにイエス・キリストもいない、聖霊の力も与えられていないという時期です。イエス・キリストもいない、聖霊の働きもない、その時期に弟子たちは、何をしていたのでしょうか。

弟子たちは一つの所に集まって、「**心を一つにして祈っていた**」のです。イエス・キリストは天に昇って行かれる前、弟子たちにこう言われました。「**エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです**」(使徒 1:4-5)。弟子たちは、イエス・キリストが言われたこの言葉を思い出し、一つの所に集まって、祈りながら聖霊の力が与えられることを待っていたのです。

しかし彼らはなぜ、ただ聖霊の力が与えられることをじっと待つだけでなく、祈りながらまったのでしょうか。それは、イエス・キリストは以前、このように言われたからです。「**求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます…天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます**」(ルカ 11:9-10、13)。イエス・キリストが以前、聖霊の力は求めるものだと言われたからです。聖霊の力は求める者に与えられるのだから、彼らは心を一つにして祈りながら待ったのです。

彼らは、イエス・キリストが天に昇られてから約十日間、心を一つにして祈りながら聖霊の力が与えられることを待ちました。そしてついに十日後のペンテコステの時、彼らが集まって祈っている所に、聖霊が降り、彼らは聖霊の力によってイエス・キリストを証しし始めたのです。その結果、三千人にも及ぶ人々がイエス・キリストを信じて、洗礼を受けたのです。そしてエルサレム教会が誕生したのです。

私たちが知らなければならないことは、エルサレム教会は「心を一つにして祈る」ことから始まったということです。そして聖霊の力を求めて祈ることから始めたということです。教会はもともと、「祈りの集まり」だったのです。聖霊の力を求めて祈る集まりに、

聖霊の力が与えられ、聖霊と聖書の力によってイエス・キリストを証ししていく中で、教会は生まれていったのです。

教会は、祈りから生まれたものです。その意味で、祈ること、特に聖霊の力を求めて祈ることは、教会にとって本質的なことと言えます。

教会は、イエス・キリストを証する共同体です。イエス・キリストを証するためには、聖霊と聖書の力が必要です。ではどのように聖霊と聖書の力は与えられるのか。それは、祈ることによって、心を一つにして聖霊の力を求めることによって与えられていくのです。

おわりに

教会の原点、それは、心を一つにして祈ることです。皆が集まって、心を一つにして祈ること、それが教会の原点です。私たちは、個人的にそれぞれで祈ることも大切です。しかし、皆が心を一つにして祈ること、皆が同じ方向に向かって、同じ一つの願いをもって祈ること、それが教会の活力となり、聖霊の力が生き活きと現わされるようになるのです。

私たちの教会は、今年で26年目を迎えます。この教会は、韓国人の宣教師、任泰教先生ご夫妻の熱い祈りから生まれたのです。彼らは熱心に祈る人たちでした。早天祈祷会、水曜祈祷会、金曜祈祷会、季節ごとの断食祈祷会など、熱心に祈る人たちでした。私たちの教会は、彼らの祈りによって生まれ、彼らの祈りによって支えられてきたのです。

私たちの教会の伝統には、このような熱い祈りがあります。しかし、私たちの教会の現在は、決して熱い祈りがあるとは言い難いと思います。私自身にも、熱い祈りがあるとは言い難いと思います。

では私たちは、早天祈祷会を始めたり、断食祈祷会を始めればよいのでしょうか。それも一つの方法かもしれませんが。しかし、私たちにとって何よりも大切なことは、私たちが心を一つにして祈るべき願いは何か、ということを問うことではないかと思います。

イエス・キリストが天に昇って行かれた後の弟子たちは、イエス・キリストもいない、聖霊の働きもない、そのような状況に置かれました。そのような中で彼らは、聖霊の力が与えられる、その一つの願いを、皆で心を一つにして熱心に祈ったのです。

私たちの教会にとって、皆で心を一つにして祈るべき願いは何でしょうか？皆が集まって祈りたくなるような祈りとは何でしょうか？それこそが教会のヴィジョンだと思います。

聖霊の力を求めて皆で心を一つにして祈ることも良いかもしれませんが。しかし、それではあまりにも抽象的です。私たちはもっと具体的な願いを持たなければなりません。皆で集まって心を一つにして祈りたくなるような、具体的で明確なヴィジョンを持たなければなりません。神様の栄光を現わすヴィジョンを持たなければなりません。そうでなければ、

教会の祈りは弱体化し、教会の活力はどんどん失われていくのではないのでしょうか。

皆で集まって心を一つにして祈りたくなるような、神様の栄光を現わす具体的で明確なヴィジョンを持ち、熱心に祈り、その中で聖霊と聖書の力を与えられて、イエス・キリストを証ししていく、それこそエルサレム教会から学ぶ教会のあり方ではないのでしょうか。